



Informatica® Mass Ingestion  
April 2024

# 基本操作

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica Cloud、Informatica Intelligent Cloud Services、PowerCenter、PowerExchange、および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、[infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com) までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2024-05-20

# 目次

<b>序文</b> .....	4
Informatica のリソース.....	4
Informatica マニュアル.....	4
Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト.....	4
Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ.....	4
Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス.....	5
データ統合のコネクタのドキュメント.....	5
Informatica ナレッジベース.....	5
Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center.....	5
Informatica グローバルカスタマサポート.....	5
 <b>第 1 章 : 一括取り込みの基本操作</b> .....	6
Secure Agent のインストール.....	7
Windows での Secure Agent のインストール.....	7
Linux での Secure Agent のインストール.....	12
Secure Agent サービス.....	15
データベース取り込みサービス.....	15
一括取り込み（ファイル）.....	20
CMI ストリーミングエージェント.....	23
プロジェクトとプロジェクトフォルダの作成.....	29
ユーザープロファイルの編集.....	30
 <b>索引</b> .....	31

# 序文

一括取り込みで取り込みタスクの設定を開始する前に実行する必要があるステップについては、*入門ガイド*を参照してください。Informatica Intelligent Cloud Services の実用的な知識を有していることを前提としています。

## Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

### Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム ([infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com)) までご連絡ください。

### Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト (<http://www.informatica.com/cloud>) にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

### Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration>

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers>

## Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

<https://marketplace.informatica.com/>

## データ統合のコネクタのドキュメント

データ統合のコネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

## Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム ([KB\\_Feedback@informatica.com](mailto:KB_Feedback@informatica.com)) です。

## Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center (<https://www.informatica.com/trust-center.html>) にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

サブスクライブするには、[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページで **【サブスクライブして更新】** をクリックします。電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィード、またはこの 4 つの任意に組み合わせとして送信される通知を受信するという選択ができます。

## Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルサポートセンターには、Informatica Network または電話でお問い合わせください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを検索するには、Informatica Intelligent Cloud Services のヘルプメニューで **【サポートにお問い合わせください】** をクリックして、**Cloud Support** ページに移動します。**Cloud Support** ページには、システムステータス情報とコミュニティディスカッションが記載されています。追加のリソースを検索する場合や電子メールで Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせる場合は、Informatica Network にログインし、**【サポートが必要な場合】** をクリックしてください。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。

# 第 1 章

## 一括取り込みの基本操作

取り込みタスクを設定する前に、すべての前提条件タスクが完了していることを確認してください。これらのタスクのほとんどは、共通の Administrator モジュールで実行されます。

### 手順 1. システム要件の確認

以下の項目をチェックします。

- 一括取り込みデータベースの最小システム要件については、「一括取り込みデータベース」 > 「一括取り込みデータベースのシステム要件」を参照してください。
- 一括取り込みと互換性のある Web ブラウザ、および Secure Agent でサポートされているオペレーティングシステムを確認するには、Informatica Network (<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices/>) で、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) の Product Availability Matrix (PAM) を確認してください。
- 各取り込みタイプでサポートされているソースとターゲットのタイプとバージョンを確認するには、KB 記事 [What are the supported sources and targets for IICS Cloud Mass Ingestion service?](#) を確認してください。

### 手順 2. 組織を設定します。

管理者の場合は、管理者の【組織】のページから組織を設定します。組織は、ライセンス、ユーザーアカウント、取り込みタスク、およびジョブとセキュリティに関する情報を格納する Informatica Intelligent Cloud Services リポジトリ内の安全な領域です。

次に、組織のユーザー、ユーザーグループ、およびユーザーロールの権限を設定します。

組織に組織階層ライセンスがある場合は、組織内に 1 つ以上のサブ組織も作成できます。企業内のさまざまなビジネス環境を表すサブ組織を作成できます。例えば、開発、テスト、およびプロダクション環境を表す個別のサブ組織を作成することができます。

詳細については、管理者ヘルプの「組織」を参照してください。

### 手順 3. Secure Agent のダウンロードとインストール

管理者の【ランタイム環境】ページで、Secure Agent をダウンロードしてインストールします。Secure Agent は、タスクを実行し、組織と Informatica Intelligent Cloud Services 間でのファイアウォールを越えた安全な通信を可能にする軽量プログラムです。一括取り込みでは、どの取り込みタイプでも、Hosted Agent またはサーバーレスランタイム環境をサポートしていません。

Secure Agent をダウンロードしてインストールすると、*Secure Agent グループ*（ランタイム環境とも呼ばれる）が作成されます。Secure Agent グループには、ライセンスで許可されている場合、1 つの Secure Agent または複数のエージェントを含めることができます。

Secure Agent グループのサービスとコネクタを有効にすると、選択内容に基づいたコンポーネントとパッケージがダウンロードされ、関連するランタイム環境が作成されます。詳細については、管理者ヘルプの「Secure Agent グループ」を参照してください。

複数のエージェントが含まれている Secure Agent グループを使用する場合、アクティブなエージェントのリストから使用可能なエージェントが選択され、ジョブが実行されます。アクティブなエージェントの実行が停止すると、ジョブはグループ内の別の利用可能なエージェントに切り替えることができます。切り替えるには、ジョブを停止して再開する必要があります。一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースは、Kafka ターゲットを持つジョブを除く初期ロードジョブで、複数のエージェントが含まれている Secure Agent グループをサポートします。また、一括取り込みデータベースは、Oracle または SQL Server ソースを持つ増分ロードジョブおよび初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブで、次の制限に従って、Secure Agent グループをサポートします。

- ジョブに Kafka ターゲットを含めることはできません。
- ジョブで永続ストレージを有効にすることはできません。
- ジョブでは、Oracle または SQL Server のクエリベースの CDC メソッドを使用して、タイムスタンプカラムをクエリして変更をキャプチャすることはできません。

他のタイプの増分ロードジョブ、および初期ロードジョブと増分ロードの組み合わせジョブの場合、単一の Secure Agent を使用する必要があります。

#### 手順 4.ランタイム環境の設定

管理者の **【ランタイム環境】** ページで、ランタイム環境を選択します。

ランタイム環境は、タスクを実行するための実行プラットフォームです。ユーザーがタスクを実行できるようにするには、組織内に少なくとも 1 つのランタイム環境が必要です。別のランタイム環境を作成する場合は、割り当てられていない Secure Agent を追加する必要があります。

**【システム構成の詳細】** で、CMI ストリーミングエージェント、データベース取り込み、または一括取り込み（ファイル取り込み）サービスのプロパティを構成します。詳細については、「[「Secure Agent サービス」 \(ページ 15\)](#)」を参照してください。

#### 手順 5.接続の設定

**【接続】** ページで、取り込みタスクで使用するソースコネクタとターゲットコネクタの接続プロパティを設定します。詳細については、「[コネクタと接続](#)」 > 「[一括取り込みコネクタ](#)」と「[コネクタと接続](#)」 > 「[一括取り込み接続のプロパティ](#)」を参照してください。

#### 手順 6.プロジェクトの作成

一括取り込みサービスの **【参照】** ページから、プロジェクトとプロジェクトフォルダを作成して、取り込みタスクを整理します。プロジェクトには、複数のサブフォルダを含めることができます。「[「プロジェクトとプロジェクトフォルダの作成」 \(ページ 29\)](#)」を参照してください。

## Secure Agent のインストール

Secure Agent は Windows または Linux にインストールできます。

### Windows での Secure Agent のインストール

Windows 上では、Secure Agent が Windows サービスとして実行されます。Secure Agent をインストールするときには、Informatica Cloud Secure Agent Manager もインストールします。

デフォルトでは、Windows を起動すると Secure Agent も起動されます。Secure Agent Manager または Windows サービスを使用して Secure Agent を停止および再起動できます。インストールプログラムの実行に使用するボリュームとは異なるボリュームに Secure Agent をインストールする場合は、Windows サービスから Secure Agent を起動および停止する必要があります。

また、Secure Agent Manager を使用して、Secure Agent のステータスをチェックし、プロキシ情報を設定することもできます。Secure Agent は、BASIC、DIGEST、および NTLMv2 プロキシ認証で動作します。

Secure Agent Manager は、[スタート] メニューまたはデスクトップアイコンから起動できます。Secure Agent Manager を閉じると、最小化されて Windows タスクバーの通知領域に表示され、すぐにアクセスできるようにされます。

Secure Agent をインストールするときには、次のタスクを実行します。

1. マシンが最小要件を満たしていることを確認します。
2. Secure Agent インストーラのファイルをダウンロードします。
3. Secure Agent をインストールして登録します。

## Windows での Secure Agent の要件

Secure Agent は、インターネット接続が可能であり、Informatica Intelligent Cloud Services にアクセス可能な任意のマシンにインストールすることができます。

Windows で Secure Agent をインストールする前に、次の要件を確認してください。

- Secure Agent マシンが、サポート対象のオペレーティングシステムを使用していること。Secure Agent でサポートされているオペレーティングシステムのリストについては、ナレッジベースの [Product Availability Matrix \(PAM\) for Informatica Intelligent Cloud Services](#) を参照してください。
- Secure Agent マシンに、Microsoft Visual C++ 2015 Redistributable があること。
- Secure Agent マシンに、少なくとも 4 つの CPU コア、16GB の RAM、および 5GB 以上の空きディスク容量があること。
- Secure Agent マシンが、250GB 以上のディスク容量と 5GB 以上の空き容量を持つボリューム、または Secure Agent インストールの 3 倍のサイズのボリュームのうち、大きい方のボリューム上にあること。
- Secure Agent のインストールに使用するアカウントに、フラットのソースまたはターゲットファイルが格納されているすべてのリモートディレクトリに対するアクセス権が付与されていること。
- マシンに他の Secure Agent がインストールされていないこと。マシンに別の Secure Agent がインストールされている場合は、まずそのエージェントをアンインストールしてください。

Secure Agent の要件の詳細については、次の記事を参照してください:

<https://knowledge.informatica.com/s/article/526096>

## ファイアウォールの設定

組織で保護ファイアウォールを使用している場合は、Informatica Intelligent Cloud Services のドメイン名または IP アドレス範囲を承認済みのドメイン名または IP アドレスの一覧に含めます。Secure Agent がファイアウォールを介して必要なすべてのタスクを実行できるようにするには、Secure Agent が使用するポートを有効にします。

Secure Agent はインターネットに接続するためにポート 443 (HTTPS) を使用します。トラフィックがポート 443 を通過することを許可するようにファイアウォールを設定してください。

ドメインと IP アドレスの許可リストはデータセンターに応じて異なり、これは POD (Point of Deployment) とも呼ばれます。POD は、Informatica Intelligent Cloud Services で任意のサービスを開いたときに表示される URL から特定できます。URL 文字列の最初の数文字が POD を表します。例えば、URL が `usw3.dm-us.informaticacloud.com` で始まる場合、POD は USW3 です。

Informatica Intelligent Cloud Services ドメインのホワイトリストとさまざまな POD の IP アドレスについては、ドキュメントポータル「[Pod Availability and Networking](#)」を参照するか、管理者の [ランタイム環境] ページの上部にあるリンクをクリックしてください。



## Windows での Secure Agent の権限

Secure Agent には、ソースとターゲットの間でデータを転送するために特定の権限が必要です。

Windows に Secure Agent をインストールする場合、その Secure Agent はローカル管理者グループの一部になっている必要があります。

## Windows の設定の実行

Windows で Secure Agent を使用する前に、プロキシ設定と Windows Secure Agent サービスログインを設定します。

プロキシ設定は、Secure Agent Manager で設定できます。Windows で Windows Secure Agent サービスのログインを設定します。

**注:** Informatica Cloud Data ウィザードで Secure Agent を使用する場合、Secure Agent に対してプロキシ設定または Windows サービスログインを設定する必要はありません。

## Downloading and installing the Secure Agent on Windows

To install the Secure Agent on a Windows machine, you must download and run the Secure Agent installation program and then register the agent.

Secure Agent registration requires an install token. To get the install token, copy the token when you download the agent or use the **Generate Install Token** option in 管理者. The token expires after 24 hours.

Before you download and install the Secure Agent, verify that no other Secure Agent is installed on the machine. If any other Secure Agent exists, you must uninstall it.

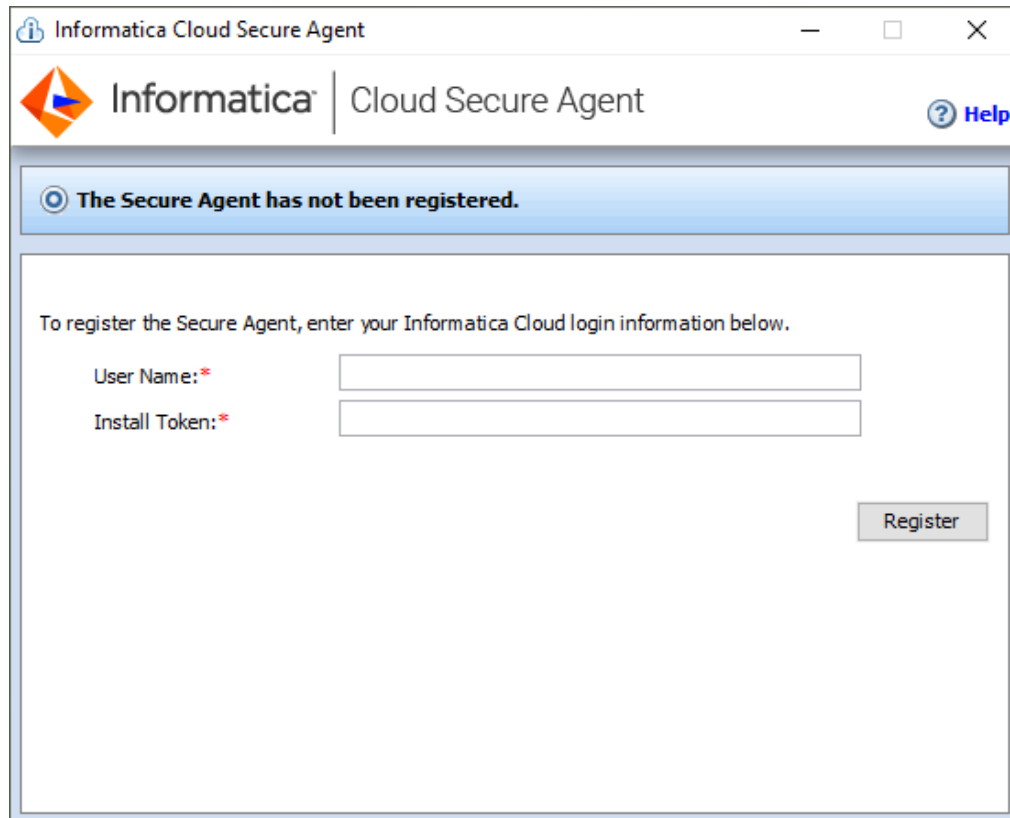
**ヒント:** To verify the checksum of the Secure Agent installation program, use the agent REST API version 2 resource. For more information about the agent resource, see *REST API Reference*.

1. Open 管理者 and select **Runtime Environments**.
2. On the **Runtime Environments** page, click **Download Secure Agent**.
3. Select the Windows 64-bit operating system platform, copy the install token, and then click **Download**.

The installation program is downloaded to your machine. The name of the installation program is agent64\_install\_ng\_ext.<agent core version>.exe.

4. Run the installation program as an Administrator:
  - a. Specify the Secure Agent installation directory, and click **Next**.
  - b. Click **Install** to install the agent.

The **Cloud Secure Agent** dialog box opens and prompts you to register the agent as shown in the following image:



5. If you did not copy the install token when you downloaded the agent, click **Generate Install Token** on the **Runtime Environments** page in 管理者, and copy the token.
6. In the Secure Agent Manager, enter the following information, and then click **Register**:

Option	Description
User Name	User name that you use to access Informatica Intelligent Cloud Services.
Install Token	Token that you copied.

The Secure Agent Manager displays the status of the Secure Agent. It takes a minute for all of the services to start.

7. If your organization uses an outgoing proxy server to connect to the internet, enter the proxy server information.
8. Close the Secure Agent Manager.  
The Secure Agent Manager minimizes to the taskbar and continues to run as a service until stopped.

## Windows でのプロキシ設定

組織で送信プロキシサーバーを使用してインターネットに接続する場合、Secure Agent は、そのプロキシサーバー経由で Informatica Intelligent Cloud Services に接続します。Secure Agent のインストーラにより、プ

ラウザで設定されている設定項目に基づいて Secure Agent のプロキシサーバー設定が設定されます。プロキシサーバーの設定は、Secure Agent Manager から変更できます。

正しいプロキシ設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1. Secure Agent Manager で、**【プロキシ】** をクリックします。
2. プロキシサーバーの設定値を入力するには、**【プロキシサーバーを使用】** をクリックします。
3. 次の情報を入力します。

フィールド	説明
プロキシホスト	必須。Secure Agent が使用する送信プロキシサーバーのホスト名。
プロキシポート	必須。送信プロキシサーバーのポート番号。
ユーザー名	送信プロキシサーバーに接続するユーザー名。
パスワード	送信プロキシサーバーに接続するためのパスワード。

4. **【OK】** をクリックします。  
Secure Agent Manager によって Secure Agent が再起動され、設定が適用されます。

## Windows Secure Agent サービスへのログインの設定

Windows では、Secure Agent サービスのネットワークログインを設定します。Secure Agent は、ログインに関連付けられている特権と権限によってネットワークにアクセスできます。

Secure Agent がディレクトリにアクセスしてタスクを設定および実行できるように、Secure Agent マシンのログインを設定します。接続を設定する、タスクを設定する、およびフラットファイルまたは FTP/SFTP 接続タイプを使用するタスクを実行する場合、Secure Agent には、関連するディレクトリでの読み取りおよび書き込み権限が必要です。

例えば、ディレクトリを参照してフラットファイルまたは FTP/SFTP 接続を設定するには、Secure Agent のログインでそのディレクトリへのアクセス権限を必要とする場合があります。Secure Agent のログインに適切な権限が付与されていないと、Informatica Intelligent Cloud Services では、**【ディレクトリの参照】** ダイアログボックスにディレクトリを表示できません。

1. Windows の **【管理ツール】** から、**【サービス】** ウィンドウに移動します。
2. **【サービス】** ウィンドウで、Informatica Cloud Secure Agent サービスを右クリックし、**【プロパティ】** を選択します。
3. **【プロパティ】** ダイアログボックスで、**【ログオン】** タブをクリックします。
4. ログインを設定するには、**【このアカウント】** を選択します。
5. アカウントとパスワードを入力します。  
ドメインで定義されているネットワークセキュリティに応じて、必須の特権と権限が付与されているアカウントを使用します。デフォルトのアカウント形式は、<ドメイン名>\<ユーザー名>です。
6. **【OK】** をクリックします。
7. **【サービス】** ウィンドウで、Secure Agent サービスを再起動して変更を有効にします。

## Linux での Secure Agent のインストール

Linux の場合、Secure Agent はプロセスとして実行されます。シェルコマンドラインを使用して、Secure Agent をインストール、登録、起動、停止、およびアンインストールすることができます。

また、シェルコマンドラインを使用して Secure Agent のステータスをチェックすることもできます。

Secure Agent をインストールするときには、次のタスクを実行します。

1. マシンが最小要件を満たしていることを確認します。
2. Secure Agent インストーラのファイルをダウンロードします。
3. Secure Agent をインストールして登録します。

次のガイドラインを考慮します。

- 特定のユーザープロファイルを作成して、Secure Agent インストールディレクトリから、すべてのフォルダへのフルアクセス権を持つ Secure Agent をインストールします。root ユーザーとして Secure Agent をインストールしないでください。
- 同じユーザーアカウントで同じマシンに複数の Secure Agent をインストールすることはできません。異なるユーザーアカウントで複数のエージェントが存在する場合があります。
- Informatica ドメイン内のどのノードにも Secure Agent をインストールしないでください。

Secure Agent の要件の詳細については、次の KB の記事を参照してください:

[IICS Minimum requirements and best practices when installing Informatica Cloud Secure Agent.](#)

## Linux での Secure Agent の要件

Secure Agent は、インターネット接続が可能であり、Informatica Intelligent Cloud Services にアクセス可能な任意のマシンにインストールすることができます。Linux で Secure Agent をインストールする前に、システム要件を確認してください。

Linux で Secure Agent をインストールする前に、次の要件を確認してください。

- マシンが、サポート対象のオペレーティングシステムを使用していることを確認します。Secure Agent でサポートされているオペレーティングシステムのリストについては、ナレッジベースの [Product Availability Matrix \(PAM\) for Informatica Intelligent Cloud Services](#) を参照してください。
- マシンに 11GB 以上の空きディスク容量があることを確認します。
- libidn.x86\_64 パッケージがインストールされていることを確認します。  
パッケージがない場合は、次のコマンドを使用してインストールします: `sudo yum install libidn.x86_64`  
**注:** パッケージをインストールするコマンドは、Linux ディストリビューションによって異なる場合があります。
- libidn.so.\*ライブラリがインストールされていることを確認します。  
ライブラリが存在しない場合は、次のコマンドを使用してインストールします。
  - 64 ビットシステムの場合: `cd /usr/lib/x86_64-linux-gnu`
  - 32 ビットシステムの場合: `cd /usr/lib/i386-linux-gnu`ライブラリをインストールした後、次のコマンドを使用してシンボリックリンクを作成します。  
`sudo ln -s libidn.so.12 libidn.so.11`
- Secure Agent のインストールに使用するアカウントに、フラットのソースまたはターゲットファイルが格納されているすべてのリモートディレクトリに対するアクセス権が付与されている必要があります。

- PowerCenter を使用する場合は、PowerCenter のインストールに使用したアカウントとは別のユーザーアカウントを使用して、Secure Agent をインストールします。  
Informatica Intelligent Cloud Services と PowerCenter は、いくつかの共通の環境変数を使用します。  
Informatica Intelligent Cloud Services に対して環境変数が正しく設定されていない場合、ジョブは実行時に失敗する可能性があります。

Secure Agent の要件の詳細については、次の記事を参照してください:

<https://knowledge.informatica.com/s/article/526096>

## ファイアウォールの設定

組織で保護ファイアウォールを使用している場合は、Informatica Intelligent Cloud Services のドメイン名または IP アドレス範囲を承認済みのドメイン名または IP アドレスの一覧に含めます。Secure Agent がファイアウォールを介して必要なすべてのタスクを実行できるようにするには、Secure Agent が使用するポートを有効にします。

Secure Agent はインターネットに接続するためにポート 443 (HTTPS) を使用します。トラフィックがポート 443 を通過することを許可するようにファイアウォールを設定してください。

ドメインと IP アドレスの許可リストはデータセンターに応じて異なり、これは POD (Point of Deployment) とも呼ばれます。POD は、Informatica Intelligent Cloud Services で任意のサービスを開いたときに表示される URL から特定できます。URL 文字列の最初の数文字が POD を表します。例えば、URL が `usw3.dm-us.informaticacloud.com` で始まる場合、POD は USW3 です。

Informatica Intelligent Cloud Services ドメインのホワイトリストとさまざまな POD の IP アドレスについては、ドキュメントポータル「[Pod Availability and Networking](#)」を参照するか、管理者の「**ランタイム環境**」ページの上部にあるリンクをクリックしてください。

## Linux での Secure Agent の権限

Secure Agent には、ソースとターゲットの間でデータを転送するために特定の権限が必要です。

Linux に Secure Agent をインストールする場合、その Secure Agent には、インストールディレクトリに対する読み取り/書き込み/実行権限が必要です。

## Linux での Secure Agent のダウンロードおよびインストール

Linux マシンに Secure Agent をインストールするには、Secure Agent インストールプログラムをダウンロードして実行してから、エージェントを登録する必要があります。

Secure Agent の登録にはインストールトークンが必要です。インストールトークンを取得するには、エージェントのダウンロード時にトークンをコピーするか、または管理者で「**インストールトークンの生成**」オプションを使用します。トークンは 24 時間後に有効期限が切れます。

エージェントを登録すると、デフォルトで独自の Secure Agent グループに追加されます。エージェントは別の Secure Agent グループに追加することもできます。

Secure Agent をダウンロードしてインストールする前に、同じ Linux ユーザーアカウントを使用してそのマシンに他の Secure Agent がインストールされていないことを確認します。他のエージェントが存在する場合は、アンインストールする必要があります。

**ヒント:** Secure Agent インストールプログラムのチェックサムを確認するには、エージェントの REST API バージョン 2 リソースを使用します。エージェントリソースの詳細は、『*REST API リファレンス*』を参照してください。

1. 管理者を開いて「**ランタイム環境**」を選択します。
2. 「**ランタイム環境**」ページで、「**Secure Agent のダウンロード**」をクリックします。

3. Linux 64 ビットオペレーティングシステムプラットフォームを選択し、インストールトークンをコピーしてから **【ダウンロード】** をクリックします。  
インストールプログラムがご使用のマシンにダウンロードされます。このインストールプログラムの名前は agent64\_install\_ng\_ext.<Agent Core バージョン>.bin です。
  4. Secure Agent を実行するマシン上のディレクトリにインストールプログラムを保存します。  
**注:** ファイルパスにスペースが含まれていると、インストールに失敗します。
  5. シェルコマンドラインから、インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。  
。 /agent64\_install\_ng\_ext.bin -i console
  6. インストーラが終了したら、次のディレクトリに移動します。  
<Secure Agent のインストールディレクトリ>/apps/agentcore
  7. Secure Agent を起動するには、次のコマンドを入力します。  
。 /infaagent startup  
Secure Agent Manager が起動します。Informatica Intelligent Cloud Services へのアクセスに使用するユーザー名を使用してエージェントを登録する必要があります。また、インストールトークンを指定する必要もあります。
  8. エージェントのダウンロード時にインストールトークンをコピーしなかった場合は、管理者の **【ランタイム環境】** ページで **【インストールトークンの生成】** をクリックし、トークンをコピーします。
  9. エージェントを登録するには、<Secure Agent のインストールディレクトリ>/apps/agentcore ディレクトリで、Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名とコピーしたトークンを使用して、次のいずれかのコマンドを入力します。
    - エージェントを独自の Secure Agent グループに追加するには、次のコマンドを使用します。  
./consoleAgentManager.sh configureToken <user name> <install token>
    - エージェントを既存の Secure Agent グループに追加するには、次のコマンドを使用します。  
./consoleAgentManager.sh configureTokenWithRuntime <user name> <install token> <Secure Agent group name>  
**注:** 存在しない Secure Agent グループ名がコマンドに含まれている場合、Secure Agent はグループに割り当てられません。有効な Secure Agent グループ名を使用するようにしてください。
- 以下の表にコマンドのオプションの一覧を示します。

オプション	説明
ユーザー名	必須。Secure Agent をインストールするユーザーの Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー名。
インストールトークン	必須。コピーしたインストールトークン。
Secure Agent グループ名	オプション。既存の Secure Agent グループにエージェントを追加する場合、代わりに含めます。このオプションがコマンドに含まれていない場合、エージェントは独自の Secure Agent グループに追加されます。

Secure Agent の登録ステータスは、次のコマンドを使用して確認できます。

- 。 /consoleAgentManager.sh isConfigured

## Linux でのプロキシ設定

組織で送信プロキシサーバーを使用してインターネットに接続する場合、Secure Agent は、そのプロキシサーバー経由で Informatica Intelligent Cloud Services に接続します。

Secure Agent のインストーラにより、ブラウザで設定されている設定項目に基づいて Secure Agent のプロキシサーバー設定が設定されます。Secure Agent に定義されているプロキシサーバーの設定は、コマンドラインから更新できます。Secure Agent は、BASIC、DIGEST、および NTLMv2 プロキシ認証を使用して動作します。

Linux マシンで Secure Agent のプロキシサーバーを設定するには、proxy.ini ファイルを更新するシェルコマンドを使用します。ネットワーク管理者に問い合わせ、プロキシの設定項目を決めてください。

1. 次のディレクトリに移動します。  
`<Secure Agent installation directory>/apps/agentcore`
2. proxy.ini ファイルを更新するには、次のコマンドを入力します。  
`./consoleAgentManager.sh configureProxy <proxy host> <proxy port> <proxy user name> <proxy password>`
3. Secure Agent を再起動します。

## Secure Agent サービス

Secure Agent サービスは、Secure Agent がデータ処理に使用するプラグブルマイクロサービスです。各 Secure Agent サービスは、エージェントで実行されている他のサービスとは独立して実行されます。

独立したサービスアーキテクチャには、次の利点があります。

- コネクタまたはパッケージを追加したときに、Secure Agent が再起動しない。
- サービスは、別のサービスの再起動時に影響を受けない。
- アップグレード中のダウンタイムは最小化されます。アップグレードプロセスは、Secure Agent の新しいバージョンをインストールし、コネクタパッケージを更新し、サービスの構成の変更を適用します。ダウンタイムを最小化するために、古いエージェントは引き続き使用可能なままで、アップグレード中に取り込みジョブを実行し続けます。Secure Agent の新しいバージョンは、アップグレードプロセスの完了後に開始されるジョブを実行します。

Secure Agent で実行されるジョブは、ライセンスと組織で使用されている Informatica Intelligent Cloud Services によって異なります。一括取り込みの場合、次の Secure Agent サービスを利用できます。

- データベース取り込み - アプリケーション取り込みジョブとデータベース取り込みジョブの実行用
- CMI ストリーミングエージェント - ストリーミング取り込みジョブの実行用
- 一括取り込み - ファイル取り込みジョブの実行用

各サービスには、固有の設定プロパティのセットがあります。パフォーマンスを最適化するため、または Informatica グローバルカスタマサポートから指示された場合は、サービスを設定したり、サービスのプロパティを変更しなければならないことがあります。

## データベース取り込みサービス

一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースはデータベース取り込みエージェントサービスを使用して、取り込みジョブを実行します。

Secure Agent をランタイム環境にダウンロードしてデータベース取り込みサービスを有効にすると、Secure Agent が実行されているオンプレミスのシステムにデータベース取り込みパッケージがプッシュされます。その後、必要に応じて Secure Agent で実行されるデータベース取り込みサービスのプロパティを設定できます。



## データベース取り込みサービスのプロパティ

Secure Agent グループが使用するデータベース取り込みサービスの動作を変更または最適化するには、ランタイム環境にデータベース取り込みプロパティを設定します。

プロパティを設定するには、ランタイム環境を開き、**[編集]** をクリックします。**[システム構成の詳細]** で、**[データベース取り込み]** サービスと **[DBMI\_AGENT\_CONFIG]** タイプを選択します。

次の表に、データベース取り込みエージェントサービスのプロパティを示します。

プロパティ	説明
maxTaskUnits	<p>Secure Agent が実行されているオンプレミスマシンで同時に実行できるアプリケーション取り込みタスクユニットとデータベース統合タスクユニットの最大数。</p> <p>タスクユニットは、ハードウェアまたはソフトウェアの容量や可用性とは関係がありません。maxTaskUnits を設定すると、CPU 使用率を正確に制御できます。有効な値は 1-20000000000 (20 億) です。</p> <p>Secure Agent マシンの適切なタスクユニット数を計算するには、コア数を 3 または 4 で割ることをお勧めします。例えば、8 コアのマシンを使用している場合は、このプロパティを 2 に設定できます。その後、CPU 使用率を監視し、必要に応じてプロパティ値を調整してパフォーマンスチューニングを行います。</p> <p>初期ロード処理中、このプロパティは同時にアンロードできるテーブルの数を決定します。残りのテーブルはキューに入れられ、リソースが使用可能になるとアンロード処理を開始します。</p> <p><b>注:</b> 1 つのジョブで多くのテーブルを処理できます。処理できるテーブルの総数の制限となるのは、使用可能なメモリのみです。1KB の行サイズに基づく初期ロードタスクには、平均してテーブルごとに 25MB の RAM が必要です。</p> <p>増分ロード処理中、このプロパティは同時に実行できるアプリケーション取り込みジョブとデータベース統合ジョブの数を決定します。</p> <p>このプロパティを Secure Agent マシンのコア数よりも大きい値に設定すると、タスク実行の並列処理が増える可能性があります。タスク実行時にパフォーマンスのボトルネックが発生する可能性があります。</p>
serviceLogRetentionPeriod	<p>最終更新がファイルに書き込まれた後に、各内部データベース取り込みサービスログファイルが保持される日数。この保持期間が経過すると、ログファイルは削除されます。デフォルト値は 7 日です。</p> <p>サービスログは、それらが作成された Secure Agent ホスト (&lt;infaagent&gt;/apps/Database_Ingestion/logs) に保持されます。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースの両方に適用されます。</p>



プロパティ	説明
taskLogRetentionPeriod	最終更新がジョブログファイルに書き込まれた後、各ジョブログファイルを保存する日数。この保持期間が経過すると、ログファイルは削除されます。デフォルト値は 7 日です。
ociPath	<p>Oracle ソースおよびターゲットの場合、oci.dll または libclntsh.so ファイルが含まれる Oracle Call Interface (OCI) ディレクトリへのパス。デフォルトでは、Oracle は、\$ORACLE_HOME/lib (Linux の場合) または %ORACLE_HOME%\bin (Windows の場合) を使用します。OCI ライブラリは、データベース取り込み CDC タスクによって Oracle に接続するために使用されます。</p> <p>実行中の DBMI エージェントの場合、この値は Windows の PATH 環境変数の値、または Linux の LD_LIBRARY_PATH 環境変数の値に付加されます。PATH または LD_LIBRARY_PATH 環境変数にすでに OCI パスが含まれている場合、このプロパティは必要ありません。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みデータベースにのみ適用されます。</p>
serviceUrl	<p>データベース取り込みサービスが Informatica Intelligent Cloud Services クラウドへの接続に使用する URL。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースの両方に適用されます。</p>
logLevel	<p>データベース取り込みサービスが生成するログに含める詳細レベル。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- トレース</li> <li>- デバッグ</li> <li>- 情報</li> <li>- 警告</li> <li>- エラー</li> </ul> <p>デフォルト値はトレースです。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースの両方に適用されます。</p>
taskExecutionHeapSize	<p>タスク実行サービスの最大ヒープサイズ (ギガバイト単位)。この値は、maxTaskUnits プロパティとともに、Secure Agent で実行可能な同時アプリケーション取り込みタスクと同時データベース統合タスクの数に影響します。より多くのタスクを同時に実行するには、ヒープサイズを増やすことをお勧めします。この値に続けてギガバイトの場合は「g」と入力します (例: 「9g」)。デフォルト値は「8g」です。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースの両方に適用されます。</p>

プロパティ	説明
useProxy	<p>このプロパティを true に設定すると、ターゲットへの接続時およびターゲットへのデータの書き込み時に DBMI エージェントがプロキシを通過できるようになります。次に、DBMI エージェントは、Secure Agent プロキシ構成のプロキシ設定を使用します。デフォルトでは、プロキシ設定は使用されません。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みアプリケーションと一括取り込みデータベースの両方に適用されます。</p>
intermediateStorageDirectory	<p>増分ロードジョブおよび初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブの場合、関連するタスク定義で【永続ストレージの有効化】オプションが選択されているときに、データを含む中間ファイルが保存されるローカルルートディレクトリです。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みデータベースにのみ適用されます。</p>
storageBackupDirectory	<p>増分ロードジョブおよび初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブの場合、関連するタスク定義で【永続ストレージの有効化】オプションが選択されているときに、バックアップファイルが保存されるディレクトリへのパスです。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みデータベースにのみ適用されます。</p>
storageProperties	<p>増分ロードジョブおよび初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブの場合、関連するタスク定義で【永続ストレージの有効化】オプションが選択されているときに使用されるキー=値のペアのカンマ区切りリストです。このプロパティを指定する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みデータベースにのみ適用されます。</p>
task_container.jvm.allowExceptionForInvalidEncodedData	<p>無効なエンコーディングを UTF-8 に報告する文字変換エラーを受け取った場合にソースデータを修復または修正しないようにするには、ソースからデータをアンロードしようとしたときにデータベース取り込みジョブが失敗しないようにこのプロパティを false に設定します。この設定を使用するとデータベース取り込みサービスによって同等の Java プロパティが DataDirect JDBC ドライバに渡されるため、例外が発生しなくなります。このプロパティを設定した後に、データベース取り込みサービスを再開する必要があります。</p> <p><b>注:</b> このプロパティは一括取り込みデータベースにのみ適用されます。</p>

## データベース取り込みエージェントの環境変数

データベース取り込みエージェントの動作を変更または最適化するには、次の環境変数を定義します。

環境変数	説明
DBMI_REPLACE_UNSUPPORTED_CHARS	<p>Microsoft Azure Synapse Analytics ターゲットの場合に、アプリケーション取り込みジョブまたはデータベース取り込みジョブが、ターゲットが正しく処理できない文字データ内の文字を置き換えるかどうかを指定します。文字の置き換えを有効にするには、この環境変数を <code>true</code> に設定します。</p> <p><code>DBMI_REPLACE_UNSUPPORTED_CHARS=true</code></p> <p>設定後、一括取り込みアプリケーションまたは一括取り込みデータベースは、<code>DBMI_UNSUPPORTED_CHARS_REPLACEMENT</code> 環境変数に指定されている文字を使用して、サポートされていない文字を置き換えます。</p>
DBMI_UNSUPPORTED_CHARS_REPLACEMENT	<p><code>DBMI_REPLACE_UNSUPPORTED_CHARS</code> 環境変数が <code>true</code> に設定されている場合に、Microsoft Azure Synapse Analytics ターゲットが正しく処理できないソースデータ内の文字を置き換える文字を指定します。</p> <p>デフォルト値: ? (疑問符)</p> <p>注: この環境変数は一括取り込みデータベースに対してのみ定義します。</p>
DBMI_WRITER_CONN_POOL_SIZE	<p>アプリケーション取り込みジョブまたはデータベース統合ジョブが変更データをターゲットにプロパゲートするために使用する接続の数を示します。デフォルト値は 8 です。有効な値は 4~8 です。</p>
DBMI_WRITER_RETRIES_MAX_COUNT	<p>データベース統合ジョブがソースデータを Amazon S3 または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットにロードしている最中にネットワークの問題が発生した場合に、データベース統合ジョブで初期ロードまたは増分ロードを続行する要求を再試行する最大回数を指定します。再試行がすべて失敗した場合、ジョブは失敗となります。</p> <p>デフォルト値は 5 です。</p>
DBMI_WRITER_RETRIES_INTERVAL_IN_MILLIS	<p>ネットワークで問題が発生した場合に、データベース統合ジョブが Amazon S3 または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットへの初期ロードまたは増分ロードを続行する要求を再試行する前に待機する間隔（ミリ秒単位）を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1000 です。</p>

**注:** 環境変数を定義または変更したら、データベース取り込みエージェントを再起動して、変更を有効にします。

## 一括取り込み（ファイル）

Secure Agent グループが使用する一括取り込みファイルの動作を変更または最適化するには、Administrator のランタイム環境に一括取り込みプロパティを設定します。

以下のプロパティを設定する事ができます。

タイプ	名前	説明
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	file-listener-snapshot-dir	<p>新しいファイルリスナコンポーネントのスナップショットが追加されるディレクトリ。次のディレクトリパスを追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- MassIngestionRuntime ディレクトリに対する相対パス。例: ../data/monitor。</li><li>- 絶対パス。以下に例を示します。 &lt;Secure agent installation directory&gt;/apps/MassIngestionRuntime/data/monitor</li></ul> <p><i>Secure agent installation directory</i> には Secure Agent がインストールされているディレクトリの名前が入ります。</p> <p><b>注:</b> グループに複数の Secure Agent が存在する場合は、すべてのエージェントで共有されるスナップショットディレクトリを使用します。</p>
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	mi-task-workspace-dir	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをターゲットに転送するときに中間ステージング領域として使用するエージェント内のディレクトリです。エージェント内のカスタムの場所のディレクトリ。このパスは、共有場所、マウントされた場所、およびエージェント内のデフォルトの場所とは異なる場所にすることができます。</p>
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	mi-task-project-dir	<p>ファイル取り込みタスクがプロジェクトファイルを保存するディレクトリ。エージェント内のカスタムの場所のディレクトリ。このパスは、共有場所、マウントされた場所、およびエージェント内のデフォルトの場所とは異なる場所にすることができます。</p>
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	mi-task-logs-dir	<p>ファイル取り込みタスクがタスクログファイルを保存するディレクトリ。エージェント内のカスタムの場所のディレクトリ。このパスは、共有場所、マウントされた場所、およびエージェント内のデフォルトの場所とは異なる場所にすることができます。</p>
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	mi-task-quarantine-dir	<p>ウイルススキャンの実行時に検出された感染ファイルをファイル取り込みタスクが保存するディレクトリ。エージェント内のカスタムの場所のディレクトリ。このパスは、共有場所、マウントされた場所、およびエージェント内のデフォルトの場所とは異なる場所にすることができます。</p> <p>例: userdata\quarantine</p> <p><b>注:</b> 検疫ディレクトリを自動的にクリーンアップするには、検疫場所のエージェントプロパティを /tmp/informatica/fmi/quarantine のようなシステム一時ファイルの場所に設定します。</p>

タイプ	名前	説明
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	agent-dedup-repository	スキップされた重複ファイルに関する情報は、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) に保存されます。スキップされた重複ファイルの情報を Secure Agent に保存するには、プロパティを true に設定します。 デフォルトは false です。 スキップされた重複に関する情報の保存については、一括取り込みファイルのガイドを参照してください。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	mi-dedup-snapshot-dir	スキップされた重複ファイルに関する情報を Secure Agent に保存するためのパスを入力します。 agent-dedup-repository プロパティが true に設定されている場合のみ適用されます。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	file-listener-max-pool-size	ファイルリスナを実行するスレッドの最大数。 デフォルトは 20 です。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	file-listener-core-pool-size	スレッドの合計数。 デフォルトは 20 です。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	fmi-task-max-pool-size	ファイル取り込みタスクを実行するスレッドの最大数。 デフォルトは 50 です。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	fmi-task-core-pool-size	スレッドの初期数または最小数。 デフォルトは 20 です。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	ftp-receive-socket-buffer-size	FTP インバウンドパケットのバッファサイズ。 デフォルトは 16 バイトです。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	ftp-send-socket-buffer-size	FTP アウトバウンドパケットのバッファサイズ。 デフォルトは 16 バイトです。
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	http-client-timeout	Informatica Intelligent Cloud Services へのエージェントの要求のタイムアウト時間（秒単位）。 デフォルトは 30 秒です。
PGP_SETTINGS	public-keyring-path	パブリックキーリングを保存するディレクトリ。次のディレクトリパスを追加できます。 - 一括取り込みがインストールされるディレクトリに対する相対パス。以下に例を示します。 ../data/pubring.pkr pubring.pkr にはパブリックキーリングを保存するファイルの名前が入ります。 - 絶対パス。以下に例を示します。 <Secure agent installation directory>/apps/MassIngestionRuntime/data/pubring.pkr pubring.pkr にはパブリックキーリングを保存するファイルの名前が、Secure agent installation directory にはエージェントがインストールされているディレクトリの名前が入ります。

タイプ	名前	説明
PGP_SETTINGS	secret-keyring-path	<p>シークレットキーリングを保存するディレクトリ。次のディレクトリパスを追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 一括取り込みがインストールされるディレクトリに対する相対パス。以下に例を示します。  <code>../data/secring.pkr</code>  <code>secring.pkr</code>にはシークレットキーリングを保存するファイルの名前が入ります。</li> <li>- 絶対パス。以下に例を示します。  <code>&lt;Secure agent installation directory&gt;/apps/MassIngestionRuntime/data/secring.pkr</code>  <code>secring.pkr</code>にはシークレットキーリングを保存するファイルの名前が、<code>Secure Agent installation directory</code>にはエージェントがインストールされているディレクトリの名前が入ります。</li> </ul>
JVM_SETTINGS	app-heap-size	<p>一括取り込みファイルアプリケーションの最小および最大ヒープサイズ。 デフォルトは-Xms256m -Xmx2048m です。</p>
JVM_SETTINGS	lcm-heap-size	<p>ライフサイクル管理スクリプトの最小および最大ヒープサイズ。 デフォルトは-Xms32m -Xmx128m です。</p>

Secure Agent を編集する場合は、**[カスタム構成の詳細]** 領域で次のプロパティを設定できます。

タイプ	名前	説明
AGENT_RUNTIME_SETTINGS	ComplexFileDisableWriteChecksum	<p>crc ファイルを無視するには、値を True に設定します。ジョブは、Hadoop Files V2 をソースとし、Snowflake Cloud Data Warehouse V2 をターゲットとして正常に実行されます。</p>

### フォルダパスを指定するためのガイドライン

フォルダパスは、共有場所、マウントされた場所、および Secure Agent 内のデフォルトの場所とは異なる場所にすることができます。

次の表に、ソースフォルダパスの前後のスラッシュの使い方を示します。

ソース	フォルダパス
Windows	<p>&lt;フォルダパス&gt; 例: C:\temp</p>
Linux	<p>/&lt;フォルダパス&gt;/ 例: /root/path</p>
Windows の共有の場所	<p>&lt;フォルダパス&gt;にスラッシュ (\) を追加 例えば、パス\\INV12B2B01\Shared\path は、\\\\INV12B2B01\\Shared\\path と指定されます</p>

## CMI ストリーミングエージェント

CMI ストリーミングエージェントを使用して、ストリーミング取り込みタスクを定義し、展開します。ストリーミング取り込みタスクを一括取り込みサービスで設定します。

CMI ストリーミングエージェントは、オンプレミスシステムで実行され、一括取り込みストリーミングサービスと連携して動作します。オンプレミスシステムで、CMI ストリーミングエージェントは一括取り込みストリーミングで展開されたジョブを実行します。エージェントは各ジョブのステータスおよび統計情報を更新します。

Linux でエージェントのインストールディレクトリ名にスペースが含まれている場合、CMI ストリーミングエージェントが起動しません。エージェントは接続タイムアウトステータスを返します。再起動を数回試行した後に、エージェントはエラー状態になります。

**注:** Informatica Intelligent Cloud Services 一括取り込みサービスの 2020 年 4 月のリリースよりも前、CMI ストリーミングエージェントは、ストリーミング取り込みエージェントという名前でした。

### CMI ストリーミングエージェントのプロパティ

CMI ストリーミングエージェントの動作を変更または最適化するには、ランタイム環境でエージェントプロパティを設定します。CMI ストリーミングエージェントのプロパティは、Secure Agent の編集時に **【システム構成の詳細】** 領域で設定します。

CMI ストリーミングエージェントのエンジン、エージェント、およびスクリプトのプロパティを設定できます。

次の図は、CMI ストリーミングエージェントのプロパティの一部を示しています。

▼ System Configuration Details

Service: 

CMI Streaming Agent

Type: 

All Types

Type	Name	Value
Engine	MaxLogFileSize	'5MB'
Engine	LogLevel	'DEBUG'
Agent	DataflowPullInterval	60
Agent	JVM	'-Xms256M -Xmx256M'
Agent	LogLevel	'DEBUG'
Agent	MaxLogFileSize	'10MB'
Agent	MaxNumberOfBackups	5
Scripts	LogLevel	'DEBUG'
Scripts	MaxFileSize	'5MB'
Scripts	MaxBackupIndex	5

CMI ストリーミングエージェントの次のプロパティを設定できます。

タイプ	プロパティ名	説明
エンジン	MaxLogFileSize	エンジンが作成可能なログファイルの最大サイズ。 デフォルトは 5 MB です。
エンジン	LogLevel	エンジンのログレベル。
エージェント	DataflowPullInterval	エージェントがタスクで更新を確認するまでの間隔。 デフォルトは 60 秒です。
エージェント	JVM	エージェントの JVM プロパティのリスト。例: [-Xms256M -Xmx256M]
エージェント	LogLevel	エージェントのログレベル。
エージェント	MaxLogFileSize	エージェントが作成可能なログファイルの最大サイズ。 デフォルトは 10MB です。



タイプ	プロパティ名	説明
エージェント	MaxNumberOfBackups	エージェントのバックアップログファイルの最大数。デフォルトは 5 です。
スクリプト	LogLevel	スクリプトのログレベル。
スクリプト	MaxFileSize	最大ファイルサイズ。この最大ファイルサイズに達した後、ログはロールオーバーされ、新しいファイルが作成されます。デフォルトは 10MB です。
スクリプト	MaxBackupIndex	ロールオーバー後に保持するバックアップファイルの最大数。デフォルトは 5 です。

## ストリーミングエージェントオフラインモード

CMI ストリーミングエージェントがオフラインであるか、インターネットに接続されていない場合、ストリーミング統合ジョブを実行および監視できます。

ストリーミングエージェントは、オンラインとオフラインの両方の通信モードをサポートします。オフラインモードでは、ストリーミングエージェントが Informatica Intelligent Cloud Services と長期間通信を行っていない場合でも、ストリーミング統合ジョブの実行は継続されます。ストリーミングエージェントは、取り込みタスクの正常性と統計をローカルで引き続き監視します。ストリーミングエージェントがオンラインになり、クラウドサービスに接続すると、エージェントとタスクの構成変更が更新され、サービスの正常性と統計が更新されます。

オフラインモードとオンラインモードを切り替えるには、一括取り込みストリーミングサービスによって提供されるコマンドラインユーティリティを使用できます。次のコマンドを実行して、コマンドラインユーティリティを起動します。

```
<Informatica Secure Agent>/apps/Streaming_Ingestion_Agent/<version>/runcli.bat
```

コマンドラインユーティリティはコマンドプロンプト `infa/stream` を使用し、3 つのグループのコマンドを提供します。

通信モードは、コマンドラインユーティリティを介してのみ変更できます。ストリーミングエージェントは、エージェントが再起動したときに通信モードを保持します。

次の表に、このコマンドラインユーティリティのコマンドを示します。

コマンド	説明	例
app-config	ストリーミングエージェントアプリケーションの現在の構成を表示します。	<pre> infa/stream :&gt;app-config deploy.pull.interval : 60 health.poll.interval : 30 minifi.ingester.file.location : ./conf siagent.communication.mode : Online siagent.monitoring.persist.dir : ../data siagent.statistics.post.batchsize : 720 siagent.statistics.post.concurrency : 60 siagent.status.persist.dir : ../data statistics.poll.interval : 30 </pre>
app-setconfig	<p>このコマンドを使用して、次のプロパティを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- siagent.communication.mode. オフラインまたはオンライン通信モードを設定するために使用します。</li> <li>- siagent.statistics.post.batchsize. バッチ内のスナップショットの数を定義するために使用します。</li> <li>- siagent.statistics.post.concurrency. 統計を投稿するワーカースレッドの数を定義するために使用します。</li> </ul> <p>--key と --value トークンはオプションです。</p>	<pre> infa/stream :&gt;app-setconfig --key siagent.statistics.post.batchsize --value 20 </pre> <p>または</p> <pre> infa/stream :&gt;app-setconfig siagent.statistics.post.batchsize 20 </pre>
app-status	<p>ストリーミングエージェントの現在のステータスを表示します。</p> <p>health status code と health error message は Administrator に表示されるエージェント（サービス）のステータスを示します。</p> <p>uptime はストリーミングエージェントアプリケーションが使用可能になってからの秒数を示します。</p>	<pre> infa/stream :&gt;app-status health error message : No errors health status code : RUNNING(0) uptime : 67828 </pre>
app-statistics	<p>ストリーミングエージェントの全体的な統計収集のメタデータとステータスを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- collection interval. 統計収集の間隔（秒単位）。</li> <li>- post interval. 投稿された統計または投稿の試みの頻度。</li> <li>- max batch size. 1 回の http 投稿で投稿されるスナップショットの最大数。</li> <li>- last batch size. 最後の http 投稿のスナップショットの数。</li> <li>- last time collected. 統計が最後に収集されたときのタイムスタンプ。</li> <li>- last time posted. 統計が最後に投稿されたときのタイムスタンプ。</li> </ul>	<pre> infa/stream :&gt;app-statistics collection interval : 30 last batch size : 2 last time collected : 7/3/20 10:19:03 AM IST last time posted : 7/3/20 10:18:53 AM IST max batch size : 20 pending snapshots : 3 post interval : 30 </pre>
clear	画面をクリアします。	-

コマンド	説明	例
exit、quit	アプリケーションを終了します。	-
help	使用可能なすべてのコマンドのサマリを表示します。	<pre> infa/stream :&gt;help AVAILABLE COMMANDS Agent Application Commands app-config: Show agent application configuration app-setmode: Set the communication mode [Online/Offline] app-status: Show agent application status Built-In Commands clear: Clear the shell screen. exit, quit: Exit the shell. help: Display help about available commands. Streaming Ingestion Task Commands task-health: Show streaming ingestion task health task-list: Show streaming ingestion task list task-metadata: Show streaming ingestion task metadata </pre>
task-list	ストリーミングエージェントに現在デプロイされているストリーミング統合ジョブのリストを表示します。	<pre> infa/stream :&gt;task-list 6e61e76f-2618-4292-ab3d-dd181f47ee91 ad5053c7-5ac2-493f-8cbb-a24900b61f71 </pre>
task-health	<p>ストリーミングエージェントのすべてのストリーミング統合ジョブの正常性のステータスを表示します。</p> <p>--name オプションまたは--id オプションを使用してジョブを指定します。</p> <p>何も指定されていない場合は、すべてのジョブのリストが表示されます。</p>	<pre> infa/stream :&gt;task-health --name aby_df4 processors : [{"id":"14a7a095-7fac-4fc3-ac5c-705369132516","status":"ERROR"}, {"id":"821e6730-3aed-4d3f-b875-45f424b6b963","status":"RUNNING"}] status : ERROR timestamp : Sat May 09 06:04:08 IST 2020 infa/stream :&gt;task-health 6e61e76f-2618-4292-ab3d-dd181f47ee91 processors : [{"id":"2a0b8715-aa7a-46c5-9d6a-6a356f5a0102","status":"ERROR"}, {"id":"1172f3a8-35dd-41ef-be4b-bc0cf37e3794","status":"RUNNING"}] status : ERROR timestamp : Sat May 09 06:04:08 IST 2020 ad5053c7-5ac2-493f-8cbb-a24900b61f71 processors : [{"id":"14a7a095-7fac-4fc3-ac5c-705369132516","status":"ERROR"}, {"id":"821e6730-3aed-4d3f-b875-45f424b6b963","status":"RUNNING"}] status : ERROR timestamp : Sat May 09 06:04:08 IST 2020 </pre>

コマンド	説明	例
task-metadata	ストリーミングエージェントのすべてのストリーミング統合ジョブのメタデータを表示します。 --name オプションまたは--id オプションを使用してジョブを指定します。 何も指定されていない場合は、すべてのジョブのリストが表示されます。	<pre> infa/stream :&gt;task-metadata --name aby_df4 id : ad5053c7-5ac2-493f-8cbb-a24900b61f71 name : aby_df4 runId : 9071 version : 1 infa/stream :&gt;task-metadata 6e61e76f-2618-4292-ab3d-dd181f47ee91 id : 6e61e76f-2618-4292-ab3d-dd181f47ee91 name : aby_df2 runId : 9069 version : 8 ad5053c7-5ac2-493f-8cbb-a24900b61f71 id : ad5053c7-5ac2-493f-8cbb-a24900b61f71 name : aby_df4 runId : 9071 version : 1 </pre>
task-statistics	ストリーミングエージェントのすべてのストリーミング統合ジョブの統計の詳細を表示します。 --name オプションまたは--id オプションを使用してジョブを指定します。 何も指定されていない場合は、すべてのジョブのリストが表示されます。	<pre> infa/stream :&gt;task-statistics --name aby_df1 dataflow name : aby_df1 last time collected : 1590861803731 last time posted : 1590861806091 infa/stream :&gt;task-statistics 7b7d3c09-df43-482f-b6c8-8dd80187e6d7 dataflow name : aby_df2 last time collected : 1590861770731 last time posted : 1590861741132 decfad0a-20df-4226-84f9-1ff1ab6ef96a dataflow name : aby_df1 last time collected : 1590861768730 last time posted : 1590861771054 </pre>

## オンラインモードからオフラインモードへ

デフォルトでは、ストリーミングエージェントはオンラインモードです。

ストリーミングエージェントをオフラインモードに変更するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを使用して、コマンドラインユーティリティを起動します。

Windows の場合:

```
<Informatica_Secure_Agent>/apps/Streaming_Ingestion_Agent/<version>/runcli.bat
```

UNIX の場合:

```
<Informatica_Secure_Agent>/apps/Streaming_Ingestion_Agent/<version>/runcli.sh
```

2. ストリーミングエージェントをオフラインモードに設定します。

```
app-setconfig --key siagent.communication.mode --value Offline
```

または

```
app-setconfig siagent.communication.mode Offline
```

ストリーミングエージェントは、ストリーミング統合ジョブの正常性の更新と統計の送信を停止します。

## オフラインモードからオンラインモードへ

ストリーミングエージェントをオンラインモードに変更するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを使用して、コマンドラインユーティリティを起動します。  
Windows の場合:

```
<Informatica_Secure_Agent>/apps/Streaming_Ingestion_Agent/<version>/runcli.bat
```

UNIX の場合:

```
<Informatica_Secure_Agent>/apps/Streaming_Ingestion_Agent/<version>/runcli.sh
```

2. ストリーミングエージェントをオンラインモードに設定します。

```
app-setconfig --key siagent.communication.mode --value Online
```

または

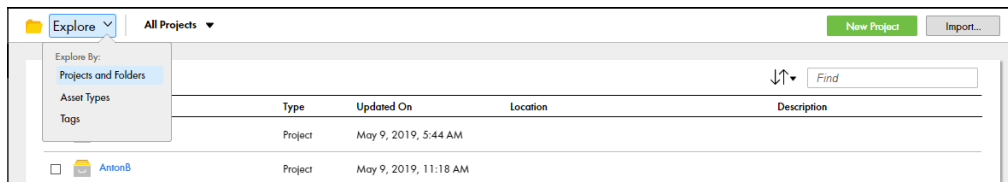
```
app-setconfig siagent.communication.mode Online
```

ストリーミングエージェントは、すべてのストリーミング統合ジョブの正常性の更新の送信を開始し、更新が【監視】ページに表示されます。オフライン中に収集された統計バックログを含む、すべてのストリーミング統合ジョブの統計をサービスに送信する処理を開始します。また、ストリーミング統合ジョブの更新を同期するか、オフラインのときにデプロイされた新しいストリーミング統合ジョブをサービスに追加します。

# プロジェクトとプロジェクトフォルダの作成

取り込みタスクアセットを含むプロジェクトを作成します。プロジェクトの下に 1 つ以上のフォルダを作成して、アセットを論理的に整理できます。ただし、フォルダの下にサブフォルダを作成することはできません。

1. 一括取り込みサービスで、【参照】ページを開きます。
2. 【参照】ページにプロジェクト以外のオブジェクトが表示されている場合は、【参照】メニューの【プロジェクトおよびフォルダ】を選択します。



3. 新しいプロジェクトを作成するには、【新規プロジェクト】をクリックします。
4. 【新規プロジェクトのプロパティ】ダイアログボックスで、最大 255 文字のプロジェクト名を入力します。プロジェクトのオプションの説明を入力することもできます。  
プロジェクト名には次の文字を含めることができません: #?`|{}^&[]\.
5. プロジェクトの下にフォルダを追加する場合は、プロジェクトを選択して【新規フォルダ】をクリックします。

6. **【新規フォルダのプロパティ】** ダイアログボックスで、最大 255 文字のフォルダ名を入力します。プロジェクトのオプションの説明を入力することもできます。

フォルダ名には次の文字を含めることができません: #?`|{}"^[&[]\.

取り込みタスクを定義する場合は、タスク定義を含めるためにプロジェクトまたはプロジェクトフォルダの場所を指定する必要があります。

## ユーザープロファイルの編集

ユーザープロファイルには Informatica Intelligent Cloud Services のユーザーアカウントの詳細が含まれます。

プロファイル内の次の情報を更新できます。

- 姓名
- 役職
- 電子メールアドレス
- 電話番号
- タイムゾーン（**【すべてのジョブ】**、**【実行中のジョブ】**、**【マイジョブ】**、**【インポート/エクスポートログ】**、**【マイインポート/エクスポートログ】** ページのジョブ実行のタイムスタンプで使用）
- パスワード
- セキュリティの質問および回答

**注:** SAML を使用して Informatica Intelligent Cloud Services にサインオンし、組織の管理者が管理者の **【SAML セットアップ】** ページで SAML グループとロールのマッピングを有効にしている場合、更新できるのはタイムゾーンのみです。その他の属性は、Informatica Intelligent Cloud Services にログインするたびにエンタープライズディレクトリから直接更新されます。

1. Informatica Intelligent Cloud Services ウィンドウ右上隅にある **【ユーザー】** アイコンをクリックして、**【プロファイル】** を選択します。
2. **【プロファイル】** ページで、氏名、役職、電話番号、タイムゾーンなどの個人情報を追加または編集します。
3. 電子メールアドレスを更新するには、**【電子メールを更新】** をクリックします。

Informatica Intelligent Cloud Services から新しい電子メールアドレス宛てに確認メールが送信されます。電子メールには、24 時間有効なリンクが含まれています。電子メール内のリンクをクリックすると、新しいアドレスが確認され、プロファイルに表示されます。リンクの有効期限が切れた場合は、確認メールを再送信できます。

4. 必要に応じて、パスワードまたはセキュリティの質問を変更します。
5. **【保存】** をクリックします。

# 索引

## C

Cloud アプリケーション統合コミュニティ  
URL [4](#)  
Cloud 開発者コミュニティ  
URL [4](#)

## I

Informatica Intelligent Cloud Services  
Web サイト [4](#)  
Informatica グローバルカスタマサポート  
連絡先情報 [5](#)

## L

Linux  
プロキシの設定 [15](#)

## P

POD  
特定方法 [8](#), [13](#)

## S

Secure Agent  
IP アドレス許可リスト [8](#), [13](#)  
Linux での権限 [13](#)  
Linux での登録 [13](#)  
Linux での要件 [12](#)  
Linux へのインストール [13](#)  
Windows サービスログインの設定 [11](#)  
Windows での起動 [7](#)  
Windows での権限 [9](#)  
Windows での要件 [8](#)  
ドメイン許可リスト [8](#), [13](#)  
ファイル取り込みの設定プロパティ [20](#)  
通信ポート [8](#), [13](#)  
Secure Agent Manager  
起動 [7](#)  
Secure Agents  
installing on Windows [9](#)  
registering on Windows [9](#)  
Secure Agent サービス  
CMI ストリーミングエージェント  
オフラインエージェント [25](#)  
オフラインモード [25](#)  
データベース取り込みエージェントの環境変数 [19](#)  
データベース取り込みサービスのプロパティ [16](#)

## W

Web サイト [4](#)  
Windows  
プロキシの設定 [10](#)  
Windows サービス  
Secure Agent ログインの設定 [11](#)

## あ

アップグレード通知 [5](#)

## し

システムステータス [5](#)

## す

ステータス  
Informatica Intelligent Cloud Services [5](#)  
ストリーミング取り込み  
Secure Agent [23](#)

## せ

セキュリティの質問  
編集 [30](#)

## た

タイムゾーン  
ユーザープロファイルの変更 [30](#)

## て

ディレクトリ  
アクセスする Secure Agent ログインの設定 [11](#)

## は

パスワード  
変更 [30](#)

## ふ

ファイアウォール  
設定 [8](#), [13](#)

- フォルダ
  - 一括取り込みのプロジェクトでの作成用 [29](#)
- ブラウザ [6](#)
- プロキシ設定
  - Linux での設定 [15](#)
  - Windows 上での設定 [10](#)
- プロジェクト
  - 一括取り込みでの作成 [29](#)
- プロジェクトフォルダ
  - 一括取り込みでの作成 [29](#)
- プロファイル
  - 編集 [30](#)

## め

- メンテナンスの停止 [5](#)

## ゆ

- ユーザープロファイル
  - 編集 [30](#)